

《担当者名》飯田貴俊

【概要】

顎口腔機能に障害を持つ患者に対応する上で必要となる歯科学の基礎知識を学ぶ。特に、言語聴覚士が対象とする障害、疾患に関連する口腔領域の問題について詳細に学ぶ。

【学修目標】

言語聴覚士が言語聴覚療法を実施するために必要な口腔領域の解剖と機能を理解する。

1. 口腔・歯の構造・機能の概要を説明する。
2. 口腔の構造・機能と摂食嚥下機能の関連を説明する。
3. 超高齢社会日本と歯科、介護保険と歯科との関連を説明する。
4. 誤嚥性肺炎の発症機序、予防のための口腔ケアの予防効果について説明する。
5. 高齢者における低栄養とその引き起こす問題について説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 歯科医療の概要 口腔・歯の形態・構造・機能	講義に概要について説明する。 歯科医療の概要について理解する。 口腔・歯の形態・構造・機能について理解する。	飯田貴俊
2	口腔・歯の形態・構造・機能 顔面・口腔・歯の発生	口腔・唾液腺・歯の形態・構造・機能について理解する。 顔面・口腔・歯の発生について理解する。	飯田貴俊
3	う蝕	う蝕の原因、重症度、治療法について理解する。	飯田貴俊
4	歯周疾患	歯周疾患の原因、重症度、治療法について理解する。 歯周疾患と全身に及ぼす影響を理解する。	飯田貴俊
5	超高齢社会日本と歯科との関連	超高齢社会日本の現状を理解する。 超高齢社会日本における歯科との関わり、介護保険における介護予防：口腔機能向上の効果について理解する。	飯田貴俊
6	超高齢社会日本と歯科との関連	超高齢社会日本における歯科と健康との関わり、介護保険における介護予防：口腔機能向上の効果について理解する。 高齢者に多く見られる誤嚥性肺炎の発症機序・発症に関連する要因・因子、予防のための口腔ケアについて理解する。 医療介護関連肺炎（介護保険制度を有し、超高齢社会日本独自の肺炎のカテゴリー）の概念、予防方法を理解する。	飯田貴俊
7	超高齢社会日本と歯科との関連	口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防効果、口腔ケアの具体的方法を理解する。嚥下機能に関して、嚥下と咬合および嚥下障害に対する補綴的治療（嚥下障害と歯科との関わり）について理解する。	飯田貴俊
8	まとめ	広義の口腔ケアと関連する口腔機能と栄養改善との関係を理解する。 超高齢社会日本における高齢者の低栄養の実態、低栄養の問題点、栄養管理の重要性、栄養療法の意義について理解する。 講義の全体を振り返るとともに、理解が不十分であった項目について復習する。	飯田貴俊

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（100％）

・定期試験および追再試験については、誤りの多かった設問に対して解説する。

【参考書】

道健一 他 編 「言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学 - 器質性聴音障害 第2版」 医歯薬出版 2016年

【学修の準備】

シラバスでのテーマと授業内容に対応する範囲を配布資料、参考書で予習しておくこと。特に専門用語についてはその意味を理解しておく。

予習は、次回の範囲の配布資料・参考書を読み、講義内容を理解しておく。（80分）

復習は、配布資料・講義の学習内容をまとめたノートを作成する。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

（DP4）関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

【実務経験】

飯田隆俊（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

歯科医師としての実務経験を活かし、言語聴覚士として必要な歯科関連の知識について講義を行う。